

＝プレスリリース＝

平成28年2月26日

いわて景気ウォッチャー調査結果
—平成28年1月調査—

標記について、概要を取りまとめましたので公表いたします。
なお、詳細は機関誌「岩手経済研究」28年3月号に掲載予定です。

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階

一般財団法人岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 菊池 洋介)
TEL 019-622-1212

岩手経済研究所

< 調査結果の概要 >

1. 県全体の状況

現状判断、先行き見通しとも若干の改善

(1) 現状判断 ～2期(6カ月)ぶりに改善するも、50を下回る～

3カ月前と比較した県内の景気の現状判断指数は、前回(44.8)に比べ1.0ポイント上昇の45.8と2期(6カ月)ぶりに改善したものの、景況感の分かれ目とされる50を8期連続で下回った。県内の景気ウォッチャーは、国体の冬季大会の開催効果などがあるものの、暖冬の影響による個人消費の停滞が一部でみられることなどから、景気の動きは依然弱いと感じている。

回答の構成比では、「良くなっている」「やや良くなっている」が18.8%(前回22.8%)、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が30.7%(同39.6%)と減少した一方、「変わらない」は50.5%(同37.6%)と増加した(図表1、2)。

分野別では、家計関連指数が45.6(同43.3)、雇用関連指数が47.5(同44.4)と前回は上回ったが、企業関連指数は45.7(同49.0)と前回は下回った。

家計関連部門では、冬季国体の効果がみられるとの回答があったが、人手不足の深刻化を指摘する回答もあった。雇用関連部門では、追加募集の求人数が多いとの回答があり、企業関連部門では、受注の減少を指摘する回答があった。

(2) 先行き見通し ～2期ぶりに50を上回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行き判断指数は、前回(49.8)に比べ1.2ポイント上昇の51.0と2期ぶりに50を上回った。景気の先行きは、人手不足の深刻化は続くが、国体の開催により観光客数の増加が見込まれることなどから、景気の持ち直しに向けた動きが期待されている。

回答の構成比では、「良くなる」「やや良くなる」が24.8%(前回22.8%)と増加した一方、「変わらない」は56.4%(同57.4%)、「やや悪くなる」「悪くなる」は18.9%(同19.8%)と減少した(図表3、4)。

分野別では、家計関連指数が52.2(同49.3)、雇用関連指数が57.5(同52.8)と前回は上回ったが、企業関連指数は44.6(同50.0)と前回は下回った。

国体開催による観光客数の増加を期待するなど前向きな回答があったが、業績不振を懸念する回答もあった。

2. 地域別の状況

地域別では、現状で全ての地域が50を下回った。先行きでは県央地域、沿岸地域の2地域が50を上回り、県南地域、県北地域の2地域は50であった(図表5)。

現状判断は、県央地域が45.9(前回42.9)、県南地域が48.7(同46.2)、沿岸地域が37.5(同45.6)、県北地域が47.5(同45.0)と全ての地域が50を下回った。

先行き判断は、県央地域が51.4(同48.6)、沿岸地域が53.1(同51.5)と2地域が50を上回り、県南地域は50.0(同48.1)、県北地域は50.0(同57.5)と2地域が50であった。

県央地域では、暖冬による影響を指摘する回答があった。県南地域では観光面に期待する回答があり、沿岸地域では車の購買意欲の回復を期待する回答があった。

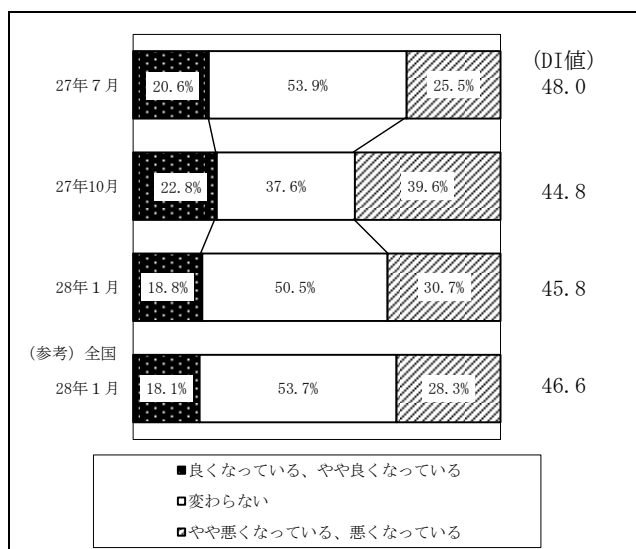
(ウォッチャーのコメントは参考1、数値については参考2、調査要領については参考3をそれぞれご参照ください。)

【参考1：景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由
現 状	家計 関連	やや良	暖冬で雪が少ないことから、レストランの客数や宴会の件数が増加した。スキー客の利用は以前から少ないため影響が少ない。宿泊は冬季国体の効果がみられ、個人客数が増加している。（県央：ホテル業）
		やや良	復興関連業者の宿泊客数は落ち着いているが、その他のビジネス客や自動車学校の生徒の客数が増加している。（県南：旅館業）
		不変	土地や建物の問い合わせの件数は減少しているが、成約件数は横ばいである。住宅ローンの金利が低下し、金利負担が軽くなった中で一定の需要が継続している。（県南：不動産販売業）
		不変	当初は暖冬であまり動きがなかった。最近は原油価格の値下げや降雪から動きが出てきたが、良くなっているとは言えない状況である。（県北：ガソリンスタンド）
		やや悪	従業員を確保できずに営業時間を短縮しているため厳しい状況である。同業者の中には人手不足を主因に廃業した先がある。休日は大型店に顧客を奪われている。（沿岸：飲食業）
		やや悪	暖冬傾向から冬物衣料品、暖房器具等の売上が大幅に減少した。年末年始に大売出し抽選会を実施したが、盛り上がりには欠けた。（県央：商店街組合）
	企業 関連	やや悪	会社の手持工事量が減少し、新規工事では当社向けの発注がない。新年度の発注は数カ月先であることから不安定な状況が続く。（県北：建設業）
		悪	取引先からの受注が減少し、売上も減少している。賃金の増加が見込めないことから、消費活動が停滞している。（沿岸：製造業）
	雇用 関連	やや良	就職活動対象の学生からの就職相談件数が大幅に減少しており、内定率は高いと思われる。公務員、民間企業を問わず追加募集の求人数が多い状況である。（県央：学校就業担当）
		不変	大企業や公務員の採用が一段落し、中小企業等を中心とした採用活動が活発化すると期待していたが、思っていたほどの動きはなかった。企業側が採用基準を下げるのではなく、来年度の採用枠に回したと感じられる。（県南：学校就業担当）
先 行 き	家計 関連	良	復興関連工事が一服しているが、国体が開催されることから本県の注目度が高まり観光客数が増加するのではないかと。（沿岸：飲食業）
		やや良	暖冬の影響で入場者が増加している。震災から5年、平泉の世界遺産登録5周年の節目を迎えることや、北海道新幹線開業による観光客数の増加が見込める。（県南：観光施設）
		不変	暖冬で雪が少ないことから客数が減少しているが、国体関係者の需要が見込まれる。（県央：タクシー業）
		不変	日銀のマイナス金利の導入によりローン金利が低下すれば車の購買意欲が高まるかもしれないが、先行きは不透明である。（沿岸：自動車販売整備業）
		不変	復興需要は一段落し、プレミアム商品券が終了となったことから消費活動がどのように動くか予想できない。（県北：小売業）
		やや悪	販売数量の減少と単価の下落から、売上が低迷している。良くなる材料が見当たらないため、厳しい状況が続くだろう。（県央：ガソリンスタンド）
	企業 関連	不変	受注は増加傾向であるが、人員の補充がなかなかできないため現在の製造量を増やすことができない。（県南：製造業）
		やや悪	中国経済の減速などから中国向けの輸出が減少し、当地域の製造業にも影響が拡大しないかと懸念している。（県南：税理士）
	雇用 関連	やや良	新聞、広告ともに売上は変化していないが、岩手国体の開催や平泉の世界遺産登録5周年などのイベントを活用した営業推進が期待できる。（県南：新聞求人広告）
		不変	人材不足と言われているが、全体的に企業の収益が上昇しつつあり、有効求人倍率は高水準を維持している。今後、就労者の労働環境の向上に連動していくと思われる。（県央：人材派遣業）

【参考2】

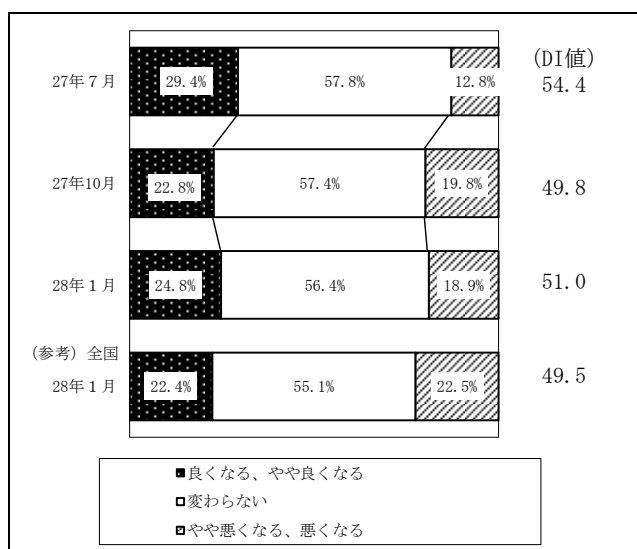
図表1 回答構成比（現状判断）



図表2 景気の現状判断指数（DI）の内訳

分野	27年7月	27年10月	28年1月	増減
合計	48.0	44.8	45.8	1.0
家計関連	46.7	43.3	45.6	2.3
小売関連	43.1	36.1	38.5	2.4
飲食関連	45.8	42.9	50.0	7.1
サービス関連	48.8	48.7	47.5	△ 1.2
住宅関連	57.1	57.1	57.1	0.0
企業関連	48.9	49.0	45.7	△ 3.3
雇用関連	55.0	44.4	47.5	3.1

図表3 回答構成比（先行き見通し）



図表4 景気の先行き判断指数（DI）の内訳

分野	27年7月	27年10月	28年1月	増減
合計	54.4	49.8	51.0	1.2
家計関連	54.7	49.3	52.2	2.9
小売関連	52.6	44.4	51.9	7.5
飲食関連	66.7	55.4	53.3	△ 2.1
サービス関連	51.2	44.7	50.0	5.3
住宅関連	53.6	67.9	57.1	△ 10.8
企業関連	54.3	50.0	44.6	△ 5.4
雇用関連	52.5	52.8	57.5	4.7

図表5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数（DI）				景気の先行き判断指数（DI）			
	27年7月	27年10月	28年1月	増減	27年7月	27年10月	28年1月	増減
合計	48.0	44.8	45.8	1.0	54.4	49.8	51.0	1.2
県央地域	49.3	42.9	45.9	3.0	53.5	48.6	51.4	2.8
県南地域	50.0	46.2	48.7	2.5	55.8	48.1	50.0	1.9
沿岸地域	47.2	45.6	37.5	△ 8.1	54.2	51.5	53.1	1.6
県北地域	36.1	45.0	47.5	2.5	52.8	57.5	50.0	△ 7.5

【参考3】

＜ 調査要領 ＞

1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) の理由

※ (1)、(3) は5段階評価による回答とする。

2. 調査時期

調査は平成28年1月に実施した。

3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを敏感に観察できる立場の方々110名への郵送、電話による聴取（図表6、7）。

図表6 調査対象者の分野・業種

分野 (調査対象者数)	調査対象者の代表的な業種
家計関連 (76名)	
小売関連 (30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
飲食関連 (16名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
サービス関連 (22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
住宅関連 (8名)	建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業関連 (24名)	製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)	人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

図表7 調査対象地域の区分

地域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (39名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、 雫石町、葛巻町、岩手町、 紫波町、矢巾町
県南地域 (42名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ケ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

4. 回答状況

有効回答数 101

回収率 91.8%

5. 指数（D I 値）の算出方法

5段階の判断に、それぞれ図表8のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比（%）を乗じてD I 値（Diffusion Index）を算出する。D I 値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

図表8 指数（D I 値）点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0